

いこひまう

2005・初秋
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

お彼岸には家族そろってお墓参りを

「彼岸」とは「迷いの世界」であるこの世「此岸」から「悟りの世界」である「彼岸」に至るという意味です。つまり彼岸会とはさとりを開くために、仏道に精進する仏教行事なのです。お彼岸には、先祖をしのび、自分の今あることを先祖に感謝して、供養の法要に参列したり、墓参りをするとともに、自らも彼岸に渡ることが出来るように精進するものとされます。例えば生き物をいつくしみ、心をただやかにして、施しを行うとか念仏を唱えるなど、信仰の実践をすることが出来ます。おすすめです。どうぞ皆様もご家族おそろいでお墓まいり、彼岸法要に参加してください。



◇客殿建築経過の報告◇



三月初旬より始まりました、客殿庫裏の建築も約半年が過ぎ内装などの最終工事に

なりました。工事終了の時期については予定通り九月下旬から十月初旬になるようです。ところが完成後の完了検査を済ませてから本堂と客殿をつなげなくてはならず、その工事も基礎工事から始まり約一ヶ月かかるようです。そんな訳で毎年十月下旬に予定している「十夜法要」は今年に限り十一月二十日(日)に行う予定であります。十夜法要で檀信徒の皆様にご披露させていただくつもりであります。面倒をおかけいたしますがどうぞよろしくお願い致します。願ひ致します。



法問寺 花だより 鈴木裕子



「早いもので、もう九月。境内でも昼間はツクツクホウシ、夜は虫の音になりました。



この半年、本堂に暮らしながら、工事が終わってからの境内や、客殿奥のお庭を彩る花たちの事をいろいろ思い巡らしていました。写真の芙蓉は、昨年の夏に小さな鉢で買ったものを、ムクゲと一緒に、奥の庭に地植えにしました

来年、皆様には客殿から見ただけのかなかあつと楽しみにしています。そして熱帯睡蓮も、暑い夏に涼しげに咲いてくれて、工事現場となっている境内を明るくしてくれていました……」

☆住職の奉仕活動報告その他

六月・足立区立寺地小学校教諭を対象に
応急手当指導、同じく足立区立扇小学校
教諭を対象に応急手当指導

七月・浄土宗東京教区北部組災害対応委
員会設立指導 八月・防災士講習会参加

★★★六月〜八月までの計報★★★

- 六月十四日寂 新修正之様 八十八歳
- 淳良正穂信士
- 六月二十二日寂 上原清重様 八十七歳
- 照譽泰晃清峻居士
- 六月三十日寂 林 絹子様 七十一歳
- 芳蓮絹香信女
- 七月二十九日寂 小暮康男様 八十一歳
- 聖譽康学信士
- 八月十日寂 島田 敏様 九十歳
- 惠譽覚寿妙敏信女

◇編集後記 住職

先日「防災士研修講座」という講習会に三日間参加しました。防災士というのは「災害に備えて研鑽し、自分の安全を守り、家族と周囲の人々を助ける、安全と安心の担い手」と説明されました。昨今の多発する災害に対して知識を増やしたいと感じ受講してきました。偶然赤十字関係のボランティア仲間も受講しておりこのような講習会を受けると大災害もすぐにくるような感じがすると、お互い意見を交換しました。防災とは災害が起きても「生きる」ことを前提に普段から準備することが大切なようです。最新の災害状況や最新の防災技術等の話を聞いて人間によるヒートアイランド化した地球の自然破壊が昨今の自然災害を誘発していること、こんなことを聞くと自然界に生かされている人間の位置を再確認することになりました。

南無南無